

令和3年度第2回神戸市スポーツ推進審議会 議事要旨

日 時：令和4年3月10日（木曜） 13：30～15：00

場 所：市役所1号館19階 大会議室

出席者：別紙のとおり

（会議の成立）

事務局：10名の委員中、6名出席のため会議の成立を確認。

（令和4年度スポーツ実施率調査について）

委 員：北京オリンピックが終わって、パラリンピックが開催されているが、その中でクロストレーニングをした選手が結果を出していることに注目している。クロストレーニングとは、自分のメイン種目以外の競技に取り組む中で、メイン種目とは異なるトレーニングを行い、体幹を鍛えることである。一つの例として、パラ最初のアルペンスキーで金メダルを取った村岡選手は、昨年の東京パラリンピックで車椅子陸上100mに6位に入賞している。インタビューで聞いて面白かったのは、スキーであれば上から落ちていくので、それほどパワーはいらないが、陸上では平行移動になるので、パワーをつけないといけないので筋力トレーニングをしたと。それがスキーにも良い影響を与えた。

もう一人は、スキーのモーグルで堀島選手が銅メダルを取った。堀島選手は日常のトレーニングとして、フィギュアスケートや体操、パルクールを行い、それがモーグルにプラスになった。

最後に、神戸新聞の記事で見たが、北京オリンピックで銅メダルを取ったフィギュアスケートの坂本選手は、2年前コロナ禍で練習が出来なくなった時、シスメックスの陸上部で練習をしたらしい。そうすると、走力がついて、それがスケートにも良い影響を与えたと考えているとのことだ。

このように色々な競技が横断して融合するのは良いことだと思う。

委 員：それでは、本日の1つ目の議題だが、令和4年度に市民スポーツ意識調査を実施することになっている。そこで、その調査票案を作成したので、皆さんからご意見、ご質問をいただきたい。

前回、平成29年度に調査を行った際は、神戸市ネットモニターを利用したが、回答者層が30代、40代の女性に偏るという問題があった。

なぜこのようなことになったかという、もともと神戸市ネットモニターは広聴課のほうで、住民基本台帳から性別年代別に無作為に比例抽出をしていた。ところが、前回調査の前にやり方が変わって、やりたい方は全員ネットモニターとして登録をすることになった。無作為抽出ではなくなり、インセンティブを設けた結果、30代40代の女性が大きく増加し、女性が7割、30

代と40代が6割となった。そのため、平成29年度のネットモニターを使った調査では、正確な市民のスポーツ実施率が出なかったため、神戸市スポーツ推進計画を策定する際には、まだ無作為抽出のネットモニターであった平成28年度に実施した調査結果を使った。

委員：それでは、調査票案の1ページを開いてください。

まず、調査票案の参考調査一覧です。このような調査は、毎回尺度を大きく変えるべきではないので、基本的には2018年に実施した神戸市民スポーツ意識調査を今回の調査票案のベースにしている。それでも、2018年の調査から色々新しい状況が出てきているので、参考調査一覧の2番目、スポーツ庁が2017年に発足して、翌年から実施しているスポーツの実施状況に関する世論調査、3番目、兵庫県が昨年度実施した兵庫県県民の意識調査、4番目の神戸商工会議所の中の神戸スポーツ産業懇話会がスポーツ実施率アップのために4年連続で実施しているスポーツ実施率・アクティブライフに関する実態調査、5番目は、SPORTS ENGLANDと言って、イングランドのスポーツを担当している局があるが、そこが実施しているActive Lives Adults Surveyという栄養に関する項目なんかも含まれている調査、以上を参考にしている。

委員：2ページ以降の調査票案の中身について、説明する。

Q1からQ3は前回と同じ。Q4についても前回と同じだが、スポーツ庁の調査と同じ聞き方にしており、全国との比較ができるようにしている。

Q5は実施時間ですが、これはSPORTS ENGLANDで採用されている項目で今回新たに加えた項目になる。アメリカのスポーツ医学会では、過去の研究に基づいて、1週間に150分以上の運動をすることが最も望ましいとされている。

Q6からQ8は前回までと同じ。Q9については、質問事項については同じだが、トップリーグとして女子サッカーのWEリーグと男子ラグビーのリーグワンが発足したことから選択肢に含めている。Q10についてもWEリーグとリーグワンに変えている。

Q11からQ15までは前回と同じ。Q12については、スポーツクラブの所属について聞いている。前回調査では、所属が18.5%でしたが、スポーツ推進計画では25%の所属を目標にしている。また、Q14については、スポーツ庁の調査でも新たに調査項目となっている。

Q15については、推進計画の中で、するスポーツ・みるスポーツ・ささえるスポーツがあるので、この項目について聞いている。

Q16については、今回新たに採用したスポーツ実施の促進要因を尋ねる項目になっている。これについては、スポーツ庁と神戸市商工会議所の調査でも採用している。

Q17については、逆に阻害要因を聞いている。

Q18については、前回調査と同じ質問項目だが、シミュレーションゴルフの施設が増えているので回答項目に追加している。

Q19は、新たに世界パラ陸上について聞いている。本来2022年に行われるはずだったが、コロナにより、2年後の開催になったため、2024年としている。

Q20もワールドマスターズゲームがコロナにより延期となったため、新たに聞いている。質問項目では、2026年となっているが、次回大会やアジアの大会との兼ね合いでまだ決まっていない。

Q21とQ22は前回と同じです。Q21については、スポーツ庁の調査でも聞かれている。

Q23については、SPORTS ENGLANDの調査を参考に新たに設けている。1週間でのどのくらいの頻度で野菜を食べますかという項目だが、これは商工会議所で実施した調査で、スポーツ実施率との相関関係がある。スポーツをする人は野菜もしっかり意識して食べているという調査結果がでている。ちなみにSPORTS ENGLANDの調査では、果物を食べる頻度も聞いている。こちらはスポーツ実施率との相関関係はなかった。

Q24については、新型コロナウイルスの流行下でどのように健康が変化したかについて新たに尋ねている。これは、商工会議所の就業者調査や兵庫県のスポーツ意識調査でも尋ねている。すると、ストレスが増えた人が4割くらい、体重が増えた人が4割くらいとかなり影響がでている。

Q25からQ27は前回と同じ、Q28からQ30は今回新たに尋ねている項目となっている。

以上、ご質問やご意見があれば受け付ける。

事務局：Q23で野菜というところがあるが、これはスポーツ実施と関連性があるのか。

委員：分析をしたところ、野菜摂取率が高い人はスポーツ実施率も高いという統計的有意差が出た。スポーツをしている人は健康意識も高いということがわかった。特にトップアスリートにとっては、栄養も練習の一部だということでこのような考え方が一般の市民にも広がってきたのかなと思う。

事務局：前回あった項目で、「運動やスポーツに関して、どのような情報が欲しいか」という項目やスポーツにかかる費用に関する項目が無くなったのはなぜか。

委員：「運動やスポーツに関して、どのような情報が欲しいか」という項目は、毎回、同じような回答ばかり出てくるため、今回は削除した。

費用については、過去にスポーツ庁が実施していたので、前回調査では入れたが、1回調査したきりで項目が無くなってしまった。スポーツ庁も項目を頻繁に変更をするし、あまり費用については分析しても参考にならなかったの、削除した。

委員：Q8のどんなスポーツを実施したかというところの選択肢だが、ゲートボールはパターゴルフ等の「等」に入るという理解でよろしいか。

ゲートボールをした人がどこに入れたらよいか迷いそうな気がしている。

委員：ゲートボール人口がピーク時から神戸も激減しているので、入れなかった。

委員：それでも田舎のほうではまだ結構な人数がやっているの、迷わないかなと。

なので、グラウンドゴルフのところに一緒に選択肢を設けてはどうか。

委員：選択肢が多いので、数が1%以下のスポーツは省いていったが、パターゴルフの後にゲートボールも追加する。

委員：補足だが、今回、身長と体重を尋ねるのは、肥満度の捕捉のためです。肥満度は色々あって、学校保健統計だと子ども達の平均体重の120%以上が子どもの肥満としているが、体重割る身長²で算出するBMIがWHOも採用できるグローバル指標と言われているが、これを身長と体重を尋ねることで算出できる。疾病のリスクが最も低いのは22となっている。そして、30以上になると肥満と認定している。日本の場合は、25以上30未満を肥満と判定している。また、Q24の新型コロナウイルスの設問ですが、ほとんどの調査ではスポーツ実施率が下がっているが、神戸市商工会議所の会員2,000人にWEB調査をしたら少しずつ上がっていた。かなり稀有な例だと思う。

委員：この後の予定としては、神戸市市民スポーツ意識調査を令和4年度の秋に実施して、令和5年度に神戸市スポーツ推進計画の中間見直しを行う予定。

委員：神戸市市民スポーツ意識調査はWEBで行うとのことだが、どのような形で行うのか。

事務局：まだ、業者が決定していないため、詳細は詰め切れていないが、下見積もりを取った事業者からは、事業者が、モニター登録者の中から神戸市の人口動態に合わせて神戸市在住の回答候補者を抽出し、性別や各年代別に必要数に達した時点で締め切るという手法を取ると聞いている。詳細については、令和4年度に詰めていくこととなる。最低でも前回調査のように偏りが出ないように、していく予定である。

委員：WEBにすることで、高齢者の敷居が高くなることは少し心配である。

事務局：一般であればそうだが、今回はモニター登録をしている高齢者に回答をいただくため、年代に偏りは出ない。もちろん、モニター登録をする活発な高齢者と一般の高齢者の間にスポーツ実施率の違いはあるかもしれないが、そこは調査手法ということで一長一短がある部分かと思う。

委員：今は、コロナの感染対策でQRコードやメールで必要項目を回答した上で、防災訓練に参加し、終わった後も1週間くらいしてコロナの感染状況を確認するようなことがあった。100人くらいが集まって、その後感染していないか確かめるようなものがあった。

委員：目的と手段が違うので一概には言えないが、日本テニス協会がテニスの大会で2週間前から毎日体温をチェック回答して、終わった後も2週間チェックしないといけないということがあった。前後合わせると1カ月くらい毎日チェックし続けられないといけないこととなり、これでクラスターを防ぐというものがあった。

委員：この意識調査は、年齢的にはどのあたりに聞くのか。

委員：基本的に20歳以上を想定している。

委員：スポーツ実施の目的の選択肢で、家族とのふれあいのためとあるが、これはほとんどいないのではないかと思う。登山や水泳、キャンプ、スキー等は家族でできるスポーツである。学校で水泳も教えてくれるし。家族でスポーツを楽しむという環境が日本、特に神戸は恵まれていると思う。登山ができて、海もあって、淡路島まで行くとキャンプもできる。トップアスリートがするスポーツもあれば、家族でも楽しめるスポーツがある。スポーツは非常に範囲が広い。市民にも家族で楽しめるスポーツや環境があることをもっと周知し、勧めるべきだと思う。

委員：現在進行中の神戸市スポーツ推進計画の中に4つの政策目標があつて、するスポーツの推進・みるささえるスポーツの推進・身体活動の推進・神戸らしいスポーツの推進がある。その中で、家庭における身体活動の推進等があり、次回はファミリーとかファミリースポーツの項目が出てきても良いのではと思う。特にコロナ禍になってから、グランピングやキャンプなどアウトドアの人气がすごく出ていて、家族で一緒にというのはすごく大事なポイントになってくると思う。

委員：他はいかがでしょうか。

委員：神戸市市民スポーツ意識調査の結果は一般公表されるのか、それともあくまで推進計画見直しの資料にするのかをお聞きしたい。

事務局：まず、この調査をするということを事前に公表することは考えていない。調査の目的としては、推進計画の基礎調査としてが主目的。市民の目に触れるのは、調査をベースに作成した中間見直し後の推進計画になる。

委員：この質問をした意図としては、この手の調査を実施するといつも総合型地域スポーツクラブの認知度が低いというデータが毎年出ている。なので、認知度の低さを知らしめるための資料として活用できないかと思い、お尋ねした。

事務局：行政が適切な方法で行う調査なので、調査結果を抜粋したりして使っていたかどうかは構わない。我々も国等の調査を使っている。

委員：でしたら、可能であれば、Q8やQ9に総合地域スポーツクラブも選択肢として入れていただけないか。そうすれば、認知度も高くなるかと思う。

委員：Q8, Q9については、あくまで種目を聞いているので、総合型地域スポーツクラブを選択肢に入れるのは難しい。

事務局：子どもの認知度という部分では、今回の調査ではなく、別途教育委員会を通じた調査等で対応する方法があるかもしれない。

委員：Q12で現在のスポーツクラブの加入状況を聞いているが、現在だけではなく、過去にどのような競技スポーツや障害スポーツをしていて、現在しているスポーツにどのようにつながっているかということ聞いてみればよいと思うがいかがか。

そして、もう一つは過去や現在経験した競技スポーツや健康のために経験したスポーツを聞くなどの項目があつてはどうかと思うがいかがか。

- 委員：Q11 でまずは、総合型地域スポーツクラブの認知度を確認する質問を入れて、Q12 で総合型地域スポーツを含めたスポーツクラブへの加入状況を聞いている。なので、Q11 と Q12 をクロス集計すれば、総合型地域スポーツクラブへの加入状況がわかるようになっている。大体スポーツクラブ所属は、職場・地域・民間・学校の4つである。前回調査では、加入率が18.5%だった。
- 委員：体育館なんかでやっているスポーツ教室なんかはスポーツクラブに含めるのか。
- 委員：スポーツ教室はプログラムなので、含めない。
- 委員：スポーツ教室にずっと通っている人が、スポーツクラブ所属と回答する可能性があることから、スポーツ教室所属の選択肢があってもいいかもしれない。
- 委員：Q12 の選択肢の中で、学校のクラブや同好会に加入しているという項目だが、例えば、高校のバスケット部のOB や OG が継続してやっているものも学校ベースのものとして想定している。また、学校開放でやっているバレーなんかもあるかもしれない。
- 委員：Q14 は、運動やスポーツを定期的（週に1回以上）、6カ月継続してというところを理想として、聞いている。
- 委員：種目やクラブが変わっても、継続しているということになるのか。
- 委員：そのとおりである。
- 委員：では、調査票案の修正としては、Q8 の選択肢にゲートボールを追加することとする。では、事務局より、報告事項として、令和4年度神戸市スポーツ関連主要施策を説明してください。
- 事務局：※資料に沿って説明
- 委員：では、先ほどの説明について、2年後のスポーツ推進計画の中間見直しに向けて、現在の計画の進捗状況等もふまえ、委員の皆さんからの質問などがあればお願いします。
- 委員：嬉しいのは、震災後、なかなかなかったハード整備がいくつか行われる点である。
- 事務局：既存の施設も東灘体育館以外は、空調の整備を行った。
- 委員：ポートアイランドスポーツセンター（以下、P S C）だが、冬場はスケートリンクになるのか。
- 事務局：現在も同じである。
- 委員：カーリングができるようなものにはならないか。
- 事務局：このあたりだと、京都にカーリング協会があるが、練習をしたり、年に1回程度神戸周辺に住んでいる人を集めて、P S Cでカーリング教室を行っているようである。
- 委員：せっかく北京オリンピックでカーリング女子が2位になったのだから関西に無いカーリング場ができればよいが。
- 委員：飛び込み台はなくなるのか。

事務局：尼崎に兵庫県立のスポーツの森があり、姫路にも 50m プールができるが、どちらも飛び込み台がない。P S C が唯一、県下で飛び込み台がある施設だったが、平成 18 年の兵庫国体で使われて以来、利用がなかった。

委員：兵庫国体の時、飛び込みの選手が P S C の飛び込み台を利用しようとした際、震災で傾いた飛び込み台に非常に戸惑った。そこで寺内健選手が、震災で被害があったのだから傾いて当然だと飛び込み、他の選手も飛び込んだ。もし、傾きが改修されていたら使われたり、なにかしらの大会が開かれたかもしれない。

事務局：神戸市も水泳連盟から要望は受けている。しかし、神戸市内には競技者がいない。寺内選手も宝塚のクラブに所属し、大阪の練習場に通っている。また、飛び込みはプールを占有するため、プール全面の料金になるので、料金が非常に高くなることも課題である。他の競技や教室とのバランスを考えると料金改定は難しい。屋根の高さの問題もあり、飛び込み台がなくなるのは、致し方ないと考えている。

※この後、生島委員と中田委員から王子公園再整備についての話もあったが、局地的な話も含む幅広い話となったため、省略。

委員：スポーツ推進計画の中にスポーツ推進委員という言葉があったと思うが、審議会と市民のつなぎ役という役割を作ってはいかがか。

委員：現状でもスポーツ推進協議会がある。

委員：もう少し推進委員に対して、箔をつけて動いていただくとか。

委員：我々もそう考えているが、今でも行政と地域をつなぐ役割を担っている。

委員：部活動の指導などもう少し推進委員の働く場をつくればよいと思うが。

委員：役割をいただければやるし、少年野球なんかの私的なスポーツクラブでの指導はしている。ただ確かに、公的なスポーツクラブでの仕事は少ないかもしれない。

以上